

【特集】新しい日常、そして今後:コロナ禍を経験して —現代行動科学会第37回大会テーマセッションから— (会社)組織のIT部門で経験したこと

齋藤 貢 (タカナシ乳業株式会社 情報システム部)

1. 仕事への影響

1月下旬ぐらいから特に神奈川県は、ダイヤモンドプリンセス号のクラスターを目の当たりにしているというもあり、じわじわと第1波が近づいている実感がありました。

感染が拡大する中3月になると社内の各会議が全て中止となり、経営会議についてはレポートを提示して、事務局がまとめてメンバーに配布、という形になりました。この時点では在宅ワークやオンライン会議の環境が社内的に全く整っておらず、私が管轄しているIT部門は、その環境を急ぎ整えるのがミッションとなりました。

まずはテレワークの環境を整える事が第1の要求事項となる中、VPN(社内ネットワーク)の同時接続数に制限がある事が発覚し、モバイルPCを配付したはいいが全然繋がらないというクレームが大量に発生、そのボトルネックの解消に3週間を要しました。解消したのは5月のGW前後であったかと記憶しています。

次の優先事項はWeb会議の環境を整える事。Web会議はそれまで月数回あるかの使用頻度だったものが、いきなり同時時間帯に複数会議が毎日開催されるといった状況となり、既存のツールではうまく行かず、急遽ZOOMの導入を決定、窮地を凌ぎました。今後は既存のツールは止めてZOOMに集約、コストダウンを図る予定です。

本来の仕事への影響ですが、年度計画通り複数のシステム開発プロジェクトが進行する中、システムの開発ベンダーも緊急事態宣言以降は訪問が禁止となった影響もあり、プロジェクトの遅れが発生しました。9月までに切り替えるはずのものがちょうど今(11月)引きずっている状況です。やはりコミュニケーション不足が原因、と考えます。

2. 生活への影響

私自身はテレワークの環境を整えるのに忙殺されていたので、通常通りの生活(出勤)でした。子供は高校受験だったので2月は気を使いましたがコロナの影響は無かったと思います。むしろその後、受験が終わっても楽しいはずの残りの学校生活が全て無くなり、4月になっても学校にも通えず、6月再開したはいいが持病の喘息を気にして授業に集中できない、弁当も食べられないなど精神的に追い詰められていた様子でした(最近解消)。

また先月実母が急逝したのですが、コロナのせいで本当は3月や夏休みと顔を見せるはずだったのに出来なかったのが、なによりも残念でなりません。

3. 新しい日常そして今後

- ・一つコロナがいい意味で社員の意識を変えているのを感じます、IT化の推進、今で言うDXの推進を求められているので対応するツールを入れやすいのではと期待します。
- ・当社のメインどころ(製造)はあまり関係ないかもしれないが、『会社に行かなくても仕事出来るじゃん』が世の中的に分かってしまったので、地方が企業と一体となり活性化させる(人口増やす)チャンスかもしれません。